

モバイル養豚経営支援システム 「Porker」

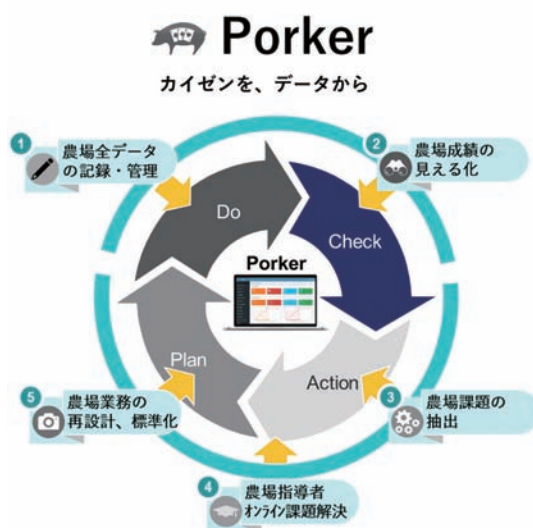
株式会社Eco-Pork
神林 隆

はじめに

日本の畜産は人手不足や高齢化、後継者不足等の内憂に加え、TPP（環太平洋経済連携協定）、EPA（経済連携協定）などの多国間自由貿易協定締結により、グローバルな競争に巻き込まれようとしている。自動車などが身を置いてきた製造業は過去20年間もの間、設備投資額の15%を情報化に投じ、データを収集し分析を行い、カイゼンすることで生産性や品質を高め続け、国際競争を戦ってきた。さらに、情報通信技術（ICT）、センシング（IoT）、そして機械学習（AI）の進化が今新たに大きな変革のうねりを生み出そうとしている。

私は、ミシガン大学 MBA で統計分析を専攻、その後コンサルティングファームで自動車業界のカイゼンを間近で経験した。そして40歳を迎えた時「自らの学びを国内産業の成長に役立てられれば」という思いに駆られ、小さい頃から憧れであった農業・畜産分野への参入を検討する中、こうして養豚業界に辿りついたのは1つの縁だと考えている。

「養豚業のデータを分析して、業界のカイゼンに貢献したい」という心に誓い、社名は豚一本で行く想いを込めて「Eco-Pork」とし、平成29年11月29日の「ニク・イイ・ニク」に会社を設立



した。「Eco」には互いに連携し、各々の力を活かして業界のみならず、社会を巻き込み、共存共栄するさまを表現した「エコシステム」から取ったが、この想いに共感するエコパートナーと「Porker」を開発、今も機能が進化する毎日である。

本稿ではPorkerがどのように生まれたのかの経緯と、これから当社が見据える未来について、紹介したいと思う。

Porker開発の経緯

最近事あるごとに、「なぜ養豚業界を選んだの